

平成22年度 たっち 事業報告書要約

平成22年度の概況

府中市子ども家庭支援センターたっちは、当法人が府中市よりサービス3事業とファミリー・サポート・センター事務局の計4事業を、受託運営している。

①ひろばの延べ利用者数は前年度より約1万7千人増の11万人以上に達した。
 ②面接・電話相談、講座、交流会、親支援事業、身体測定などの子育て支援を行った。
 ③リフレッシュ保育は年間1,805名の利用(99%以上が市内利用)があり、前年度利用数を上回った。
 ④ファミリー・サポート事業は、活動件数が前年度より約1千件増加した。

1 総合相談受付や情報コーナー及びひろば等で、地域の子育て情報を幅広く提供した。また、掃除の徹底や観葉植物等を設置するなど、館内の美化にも努めた。専任相談員を配置し、現場間の連携を強化し、府中市子育て支援課など他機関との連携は更に深まっている。

2 ひろばで利用は一日平均158組332名の利用があり、利用者の求めるタイミングを意識し、声かけに努めた。安全確保のため、入館制限を実施したが、スタッフの工夫により、できる限り制限する回数を減らすことができた。

3 府中市子育て支援課及びたっち・しらとりの連携については、連絡会等での情報共有を図った。更なる連携強化に向けて、引き続き協議、検討をしていきたい。

4 法人主催の研修をはじめ、市を通じた児童相談所等への体験研修や各種専門的研修を実施し、職員個々のスキルアップを図った。各部署間の連携強化に向けて、事例検討、対応に関するロールプレイ研修等を内部研修として実施した。

5 防災に関しては、府中市と連携し対応した。全体訓練をほぼ毎月実施、10月には新たな試みとして、利用者参加型火災避難訓練を実施した。3月11日震災による計画停電実施期間は、対象地域(2グループD)であり休業せざるを得ない中で、でき得る限り通常通りの運営に努めた。

平成22年度の課題

1 利用者ニーズを把握して、支援の充実を図る
利用者にとって、必要なサービス、必要な支援を提供する。

2 利用者の安心・安全を保障し、事業の充実を図る
防災・防犯のための研修、施設整備を行い、利用者が安心して過ごすことのできる施設であり続ける。

3 職員の資質・専門性の向上を図る
サービス評価の結果を踏まえ、会計の仕組みや事業を取り巻く制度・情勢の動向の理解を重点項目とする、チャレンジプランに取り組む。

4 「しらとり」との協働
要保護世帯への対応、サービス事業のための連携強化、ボランティア育成、受け入れのための基盤整備を行う。

5 事業運営における市職員との協働体制の更なる充実

6 職員が心身ともに健全に勤務できる環境整備
・「加湿」「換気」「空調」の安定による快適な環境づくり。
・ファミリー・サポート・センター会員のための居場所づくり。

7 ライフ・ワーク・バランスの推進
前年度に引き続き、毎週1回「ノー残業デイ」(法人の方針、また、府中市全庁水曜日)を設定し、超過勤務によるオーバーワークを抑制する。

		サービス利用・提供状況	平成22年度事業計画の執行評価
運営・管理		①平成17年3月のオープン以来、府中市の子育て支援の中核施設として、浸透し定着している。	①職員が心身とも健全に業務に従事できるようマネジメントした。 ②それぞれがスキルアップできる研修プログラムを構築実施した。 ③子育て交流会・講座は部署の枠を超えて職員が企画・運営した。 ④東北地方太平洋沖地震発生時には、日頃の訓練の成果が生かされ、無事に避難誘導ができた。
		②くるる館内の合同防災訓練をはじめ、たっち内全体防災訓練をほぼ毎月実施した。	
		③実習生を2校より、また中高生職場体験を積極的に受け入れた。	
		④よりよい施設づくりに向け、利用者アンケートを実施した(1月:ひろば・リフレッシュ保育)。	
総合相談		⑥個人情報対策は、入職時研修に位置づけ徹底を図った。	④子育て交流会・講座は部署の枠を超えて職員が企画・運営した。 ④東北地方太平洋沖地震発生時には、日頃の訓練の成果が生かされ、無事に避難誘導ができた。
		⑦年間169名のボランティアを受け入れた。また新たな受託事業として市社協の協力を得て「子育て支援ボランティア育成講座」「同 ステップアップ講座」を実施した。	
		⑧子育て交流会すやすや・ころりんクラブ(0歳児対象)を各3回、はいぼ(1歳児対象)を各2回、講座を対象(2歳児母親対象・妊婦世帯対象・1歳児父親対象)を分けて実施した。	
		①法人職員と市相談員とで随時協議を重ね対応した。	
ひろば		②新規相談件数751件で、内容は養育不安、離婚や精神疾患、児童虐待に関するものなど多岐に渡り、来所・電話相談のほか、家庭訪問や関係機関との連携を積極的に行った。虐待の相談は全体の3割弱で、家族からの相談・通報に加え、児からの相談もあった。	①市相談員と協働・役割分担しながら相談対応を行った。 ②虐待の相談割合は、増大している。 ③受付窓口や保健室での対応を通じ、予防的関わりを実践した。
		③身体測定や社会資源紹介などで、気軽に相談してもらうことで予防的関わりが出来た。	
		①登録総数は44,000名強。平成22年度単年では、5,626名の新規登録者があり、その約60%が市外在住者。年間利用者数の割合では約28%にとどまっており、市内外の割合は数年横ばいの状況である。	
		②ひろば利用時には登録カード携行が必須としていた対応を、9月より当日カード発行による入館対応へと移行した。	
家族支援		③利用児の多くは未就園児で、3歳までが98%強を占める。	①年間利用者が11万人を超えた中で大きな事故もなく運営できた。 ②入館制限実施日が8日あった。 ③遊具の見直しや新たな遊びコーナーを設置した。 ④スポットタイムの参加を目的に来館する利用者も増え、新たに実施した行事も好評を得ている。
		④「スポットタイム」として、週3回歌・手遊びなどの時間を設け、季節行事も実施した。また、「ボールプールで遊ぼう」や新たな仲間作りための「ひろばでタッチ」を毎月実施している。	
		①リフレッシュ保育新規登録者数は421名、利用者数は延べ1,805名で、ともに前年度より増加した。利用児の年齢は1～2歳が約7割を占めた。	
		②子どもも保護者も安心して利用できる保育室であるよう、こどもひとりひとりのありのままの姿を受け止め、保護者の気持ちに共感して、個別的な関わりを行った。	
ファミリーサポート		③保育士のスキルアップのため、施設内外の研修に交替で参加し、会議などを利用し共有した。また、定期的に避難訓練を実施し、緊急時に備えた。	①実利用人数は前年度とほぼ同じ。 ②さまざまな課題を抱えた子ども・保護者が増え、職員間の情報共有・検討を密に行った。 ③職員のスキルアップのために、年間を通じて研修機会を提供した。
		①新規登録者は401名で会員数合計1,255名(依頼1,002名提供294名両方89名)となった。	
		②年間活動件数は5,938件、ペアリングの件数は155件だった。一番多い通級学級への送迎や帰宅後の学校から学童クラブへの送り等障害児の援助が1,148件、次いで保育所・幼稚園の迎え及び帰宅後の預かりで816件あった。	
		③随時対応を可能とするために、依頼会員登録を個別対応に変更した。	
		④提供会員のスキルアップのために、子育てコーチング・障害児へのサポートといったステップアップ講座を実施した。	①活動件数は約1,000件増大した。 ②ペアリング件数は微減している。 ③登録方法の変更による依頼会員の急増には至らなかった。 ④サブリーダー定例会が充実し、交流会も参加者が多かった。
		⑤サブリーダーの活動として年11回の定例会で活動状況やよりよい運営について話し合ったほか、年2回の交流会を企画し、アコーディオン演奏会やコースター制作を主体的に実施した。	